

KAM (北野商業連合)

三浦 明定 △KAM会長・御キングスコート代表取締役社長▽

この7年余り、この街は急速に変貌して参りました。当初「子供の遊び」とまで酷笑された商店進出は、今では当時の6倍、150店舗余りと増え、風見鶏ブーム、観光ブームも手伝って立派な商業集積地として発展いたしました。

北野という街は、私達に物理的にも精神的にも偉大な遺産を残してくれました。何にも増して、この美しい景観や、環境は「人が安心して住め、営める」都心のユートピアと申しあげても過言ではないでしょう。

この有形無形の他に類を見ない



7月に開催されたKAM協賛の北野国際まつり

特権とチャンスに感謝し、これを受けつぐ、この場所に関わっている全ての私達が、決して間違った方向にそれを行使用することなく、

「街に対して責任を持てる商店経営者」として当組織を通して、健全な商人として商業振興はもちろんのこと、地区の発展に寄与できる住民の一人として活動したいと思っています。

そして先輩諸氏の如く、第二の文化遺産作りを目指して、決して急がず着実に北野の近未来像を素晴らしいものにしようと考えてる次第です。これを機会に「良き店作りは良き街作り」の原点をもう一度地区住民に誓約しなくてははいけないでしょう。

こんな考えから、5月17日にKAM(北野商業連合)が発足し、現在132店舗に加盟いただいております。各方面から激励や種々期待をして頂いておりますが、当面生まれたいばかりの会の組織と運営を円滑にするため、この一年間は頑張りたくと存じます。

ビジョンだとか、どのような街にするか?などよく尋ねられますが、正直な処、この街はもともと

住居地区で、それも一世紀もの間育んできた情緒空間、商店で埋めつくされた北野町は、私個人としては望んでおりません。むしろ、現在の出店者等が、より良い商店経営者を目指して自然発生的に質の高い次の出店者を促すことの方が北野らしいでしょう。

決して「売らんかな」「買わんかな」的な商店街組織とならないように努力したい。商業振興も大切であるが、この街の環境を大きく変えるような立派な商店街を夢見るより、今あるこの街の諸条件をダイジェストとしながら、よりベターで神戸らしさを失なわないような北野町を、と考えています。KAMの役員や会員が中心になり、行政指導型でなく民間サイドから浸透していく街づくりが理想だと思います。

今のところ毎月一回役員会を設け、諸問題の対策を討議したり勉強会の企画をたてております。

この夏は7月と8月に第二回目の北野国際祭りを企画し、他都市では見られないインターナショナルな雰囲気で大成功を収めました。会員達はそれぞれこの街の将来について大きな夢をいだいております。遅々とした歩みでも一歩ずつ前進していきたいものです。

KAM事務局/英国館・中央区北野町2丁目
3-16 電話 078-2221213 2

詩心象

詩・安水 稔和
画・石阪 春生



H. ISHISAKA

めざめの

とおいことだと
もみこむように
なかへなかへと
かくしこんでも
ちかづいてくる
みずのこえ

きのかげがのび
きのぼながゆれ
おもいだそうと
おぼれるさかな
わすれたように
おちるとり

いまたちもどれ
ひかりのなかへ
ぼくのこどもよ
こどものぼくよ
めくるめくよな
めざめのひ

●れんさいエッセイ●ペンのうちそと●6

美崎一子さんという歌人

三枝和子

え・元永 定正 (作家)

小野市に住む美崎一子さんという方から歌集をいただいた。『細径』（さいけい）。「平凡な商家の主婦が、細径をうろつきながら歩んできたさやかな生活を、心の赴くままに綴った記録でございます。」と「あとがき」にある。

一面識もない方である。十年くらい前、私の講演を聞いて下さったとか。添えられた手紙は、「あとがき」の文章と同じくお人柄が偲ばれる床しいものであった。美崎さんを指導なさった阪口保氏の序文には、

「はじめ地中海叢書に加わることを薦めたれど、諸作家の水準に及ぶ所にあらずと、辞退せり。よって単独歌集を『細径』と名づけて上梓す。思うに、この細径、歌壇の大路に通ずるものあるべし。」と記されている。

一読、私も同感である。短歌、俳句、詩など、いわゆる短詩型文学に接する場合、自分が門外漢のせいもあるが、私は実に気ままな味わいかたをする。手あたり次第頁をひるがえすのである。気に入った言葉に出会うと読みすすめて、ピンと来ない場所を変え、四力所、五力所と、別な頁を辿っていき、それでも自分に合わない言葉ばかりだと、そこで止めてしまうのである。特に新しい、未知の方のものを読むときはそうする。美崎さん

の場合も例外でなかった。ぶあつい歌集の三分の一くらいのところを開いた。最初に飛びこんで来たのが次の歌である。

茶屋の傍に道しるべあり右峠、左新坂、左へ登りゆく

格調が高い。私は何でもない日常の些事を言葉の力で一次元高い場所に引きあげて定着するのが短歌の生命だと思っているから、こうした表現に出会うと、本当に嬉しくなってしまう。

摂津・丹波・播磨の国の国境、清水寺の大塔に立つ

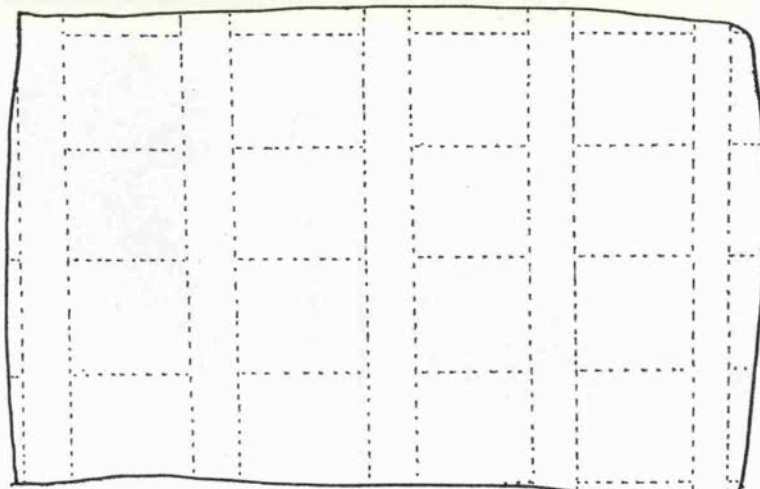
陸のはてと海の境はおぼろおぼろ播磨灘らし島かげの見ゆ

これらは「播磨清水寺」と題されているが、紀行に特に秀歌がある。他にも、

「是より北木曽路」とふ藤村自筆の道しるべあり葉桜に風

西方にやや傾きし陽あたたかし京都太秦広隆寺に着きぬ

など、など。女のひととは思えない雄大な歌いっぷりである。当年六十五歳。短歌を始められたのは昭和三十七年十二月とあるから、四十路も半ばになってからのことであろう。それにしても、大きな才能が埋もれていたことよ、とここで私は急に口惜しくなって来た。十年ほど病床にあった夫君が亡くなられてから、そのときの思いを歌に詠もうとしたのがきっかけ、だそうだが、おそらく、それまでの毎日、自分の思いを自分で確認するゆとりすらない忙しさだったろうと察しがつく



Smotonaga '82

こうした埋もれた才能の場合、男のひとであれば、もっと早くに開花する。結婚は、才能をつぶす障碍には、ほとんどならない。言ってしまうば遅咲きの花のような美崎さんの歌の前に、私は女の才能の運命について考えこんでしまった。必ずしもいい歌とは言えないが、例えば美崎さんの生活がうかがえる、

わが母は加古川の堤送りきて死ぬ程つらくば帰り来よといふ

とあるのに接したりすると、一層その思いは強くなる。つりこまれて不覚の涙がこぼれる。

声あげていひたきことを云ひてみぬ物置小屋の暗き片隅

だが正直な話、私は美崎さんのこうした系列の歌は、あまり買わない。涙をこぼしながら読んだ上で、あえてそう言うのである。歌を詠むからには、芸術の次元へ高めなければ、とむしろ声援をこめてそう言うのである。

蜂去りて子房ふくらむたまゆらの春ゆふぐれのいのちを惜しむ

直ぐ立ちの何といふ樹かからからと風鳴る坂雪もよひなり

遅い出発だったかも知れないが、寿命も延びたことだし、美崎さんが大成されることは、遅れて人間としての自由を獲得した私たち高齢の女たちの、何よりの励ましとなるにちがいないことを強調したい。



□ トランベツト片手にブラジル一人歩き(10)

フェスタで出会った ブラジル娘マリア

右近雅夫(在ブラジル・サンパウロ/絵も)

この間の日曜は「母の日」だったので、僕達親子三人は、数年前に亡くなった家内の母親の墓参りを朝のうちにすませて、近くに住んでいる僕の母を訪ねて行った。玄関(玄関)のベルを押すと、犬が吠えると同時に一足先にきていた妹の子供達が駆け出してきた。家内は途中で買ってきた赤いばらの花を母にプレゼントすると、「母ノ日、オメデトウゴザイマス」といって、おばあちゃんのほっぺたにキスをした。

ちょうどお昼前で、父が「今日は寿司が食いとうな」ったから、皆で寿司でも食いに行かへんか?」というのだし、グロリア街にある「すずき」という日本レストランへ一家総出で行くことになった。その日は日曜で母の日だったので、店内は家族連れのお客でかなり混んでいた。やっと席に着いて周囲を見まわすと、面白いことに日系の男性とブラジル人女性とのカップルが多く、混血の子供やら一世のおじいちゃん、おばあちゃんを連れて日本食を食べにきていた。偶然か、その日はかえって純粋の日本人だけのファミリアの方がすくなく、父がそれを見て「なんや、今日はブラジル人

の嫁はんのおらん家族は、肩身が狭いみたいやがな!」と大声を張り上げて冗談をいった。にぎりやマグロの刺身で腹を満たすと、僕等は早速帰途につくことにした。家に帰る途中の車の中で、さっきのことを思い出して家内に話すと、彼女は結婚に漕ぎつけるまでの苦労を想い出したのである。目に涙を浮べて「私達辛抱して本当に良かったわね!」とハンドルを持つ僕の手を握りしめていった。僕の妻のマリア・アントニアはポルトガル系のブラジル人である。

想えば、彼女と知り合ったのは、今から十七年も前のことである。当時、サンパウロの五月十三日通りからアルツール・プラド街に入った一角に緑の太木が蔽(おほ)った古めかしい屋敷があった。神戸の異人館を思わせるようなその建物には、かつてはカフェ園(カフェ園)の主でも住んでいたであろう時代も変り、カトリック大学の女子大生の寮(寮)となっていた。ある日の夕方、そのヘプブリカでフェスタがあるから好きな連中が集ってジャズをやるうといっってアミゴのエドワルドとセルジオが誘いにきた。



Maria Antonia
em 1965

M. Ukon

筆者が描いた愛妻、マリア・アントニア。筆者夫妻は
今年9月に結婚10周年を迎えた。

鉄格子の門をくぐり、玄関から大きなシャンデリアのぶらさがったホールを通って客間に案内されると、ここでも顔の広いエドワルドが若い女子大生達を次々と僕等に紹介してくれた。僕は演奏を始める前に手洗いに従っておこうと思って外へ出ていった。コロナ風の建築で部屋の外部をテラスのついた廊下^{ハル}が取り巻いているのである。台所の側の廊下の片隅で立ち話をしている二人の女の子がいた。一人は青い目をした金髪娘で、もう一人の方は小柄で黒い髪を後で束ねていた。「こんなところに引っ込んでいないで一緒にサーラへ行こうよ……」と僕は二人を誘った。サーラに戻ると、クラリネットのアルベルチットやトロンボーンのカンジドがきており、ピアノのB_bの鍵を押しながらチューニングをしていた。セルジオがピアノで前奏を弾き出したので、僕は「I can't give you anything but love」（捧ぐるは愛のみ）のテーマを吹き出した。一曲演奏し終わると、僕はついさっき出会ったばかりの小柄なブラジル娘のことが脳裡に浮んできた。目立たないが

人が良さそうで気立てのやさしそうな彼女に僕は昔風の日本女性の面影を見た。「そうだ、彼女こそ僕が余生を共にしようとか今まで探し求めていた相手だ」と思いつくや、僕はトランペットをピアノの上にはうり出し、彼女の側へとんで行った。翌朝、僕は両親にゆうべのフェスタの話をして「いよいよ僕も結婚の相手を見つけてきたよ」と得意気に打ち明けた。ところが、喜んでくれるだろうと思っていた僕の期待は見事にはずれ、「外人の女なんかを嫁はんにもらうなんてもってのほかや」と両親や妹達の猛烈な反対にあい、僕はがっかりしてしまった。

一昔前までは、ブラジルでは日本移民は水と油のように同化しないと批評された時代があった。最近、サンパウロのイビラプエラ・ショッピング・センター等を歩くと、日系人の男性とブラジル人の女性との夫婦が実に多いのには驚かされる。これはひとつには、総体にブラジルの女性が欧米や他のラテン・アメリカ諸国の女性と異なり、小さい頃から妻は夫に従うものと習慣づけられて育てているために、日本人の男性とうまくいくのだと僕は思う。

僕とマリア・アントニアはあのヘブリラカのフェスタで知り合ってから、七年間待ち続け、僕の両親達もこんなに二人が待ったのなら良からうということになり、ささやかな結婚式を挙げた。この九月で十周年を迎えることになるが、八才になったばかりの混血の一人息子は母親の教えで、日本人の血を継ぐことを誇りにしている。

BAUMKUCHEN

バウムクーヘン

木の年輪を表わしたお菓子で、
北欧では古くからお祝いの菓子として
広く愛用されております。



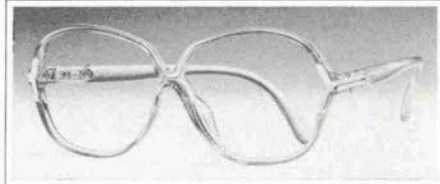
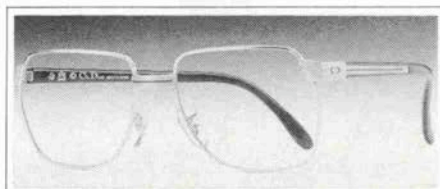
¥700……¥3,000

北 欧 の 銘 菓
ユーハイム・コンフェクト

■本社・工場・熊内店 神戸市中央区熊内町1-8 TEL221-1164

めがねとともに55年

EYE WEAR のご相談なら
おまかせください



 **神戸眼鏡院**

元町店・元町3丁目 ☎(321)1212代表
三宮店・さんちかタウン ☎(391)1874~5

耳のよきパートナー

補聴器オーディオルーム

専門コンサルタント担当

- 防音室で聴力測定・補聴器微調整
- 耳穴にフィットする耳栓型取り

※補聴器は元町店で取り扱っています。

「地方の時代」の

甘言を駁す

狩野博幸

（京都国立博物館主任研究官）

一時期、「現代っ子」なる言葉が流行した事がある。戦後に生を享け、日本の復興そして高度成長期と共に大きくなった世代、当節

所謂「団塊の世代」の子供達を、教育評論家Aがそう名づけて本を出しベストセラーになった。当時その「現代っ子」でもあった私は、その本も読み、回りの者が自らを「現代っ子だから」と何事につけ規定するのにも腹を立てて、他人から付けられた名称を自分で使って疑問にも思っていないのは怪しからんと、作文に書いたが良い点を貰えなかった。

今流行の「地方の時代」という耳に快い響きのキャッチフレーズ



2月末に開催された南蛮美術館の創設者、池長孟さんの業績をしのんだコレクションより

にも、同じ事を考えている。今度も良い点は望めないが、この欄を借りて言わせて貰う。

「地方の時代」という言葉には、今まで東京に文化が集中したのはやり過ぎでした、といったニュアンスがあるが、そうなったのは誰でもない国民自身が選択した結果である。京都人・京都文化人は今でも京都が文化の中心だと能天気なことを言っているが、江戸時代それも中期の十八世紀の中頃には文化の中心は既に江戸に移っているのだ。書籍の出版点数を見ても一七五〇年頃には江戸は上方の三倍も出している。二百年以上も前、アメリカ建国以前の話である。文化の集中の度合いを出版の件数で計るのは間違いだとする意見があれば言って貰いたい、私などからすれば、大阪を含む関西の文化後進がつい最近始まった如くに考え、国立劇場を建てれば万事解決と思うなど、本気でなければ幸いだ。第二の東京を目指す虚妄から醒めなければならぬ。「地方の時代」などという甘言ののっちはならない。

その指針が神戸にはあった筈である。江戸時代の日本は如何に西洋の文化と接触したか、その確平とした視点を絵画収集の基礎に置いた池長孟の業績は、その名も消滅する南蛮美術館の名のもとに記憶されねばならない。東京にもこの種の美術館が皆無であった事、美術史関係者のみならず日本・西洋の研究者にとって、神戸といえ「南蛮美術館」と強いイメージを与えていたことを、当の神戸市民のどれ位が誇りに思っていたか。開港地という地域性を充分に意識しながら、以上の方針に沿って神戸に関係あるなしを問わずに集められた南蛮関係資料の豊庫を、建物ごと寄贈された神戸市・神戸市民にとって、ちゃんや洋館保存以上の意義として本当に認識されているのだろうか。

「地方の時代」というキャッチフレーズは、選挙の時の「あなたが主権者」というそれと同じだ。言葉のうわべに酔い痴れてはならない。欧米の、特に米国の美術館は作品の寄贈と作品購入のための寄附金で成り立っている。講演会への優先や入場券の割引をあてにする日本の美術館の「友の会」とやらの行き方は、現今の福祉の在り方と見事に規を一にしているといえよう。「地方の時代」とは、我々に覚悟を要求しているのである。

ファッション都市づくり 10年の成果と課題

川上

勉

△オールスタイル社長▽

細川

数夫

△ジャヴァ社長▽

河本

春男

△ユーハイム社長▽

―神戸市がファッション都市づくりをめざして、今年で十年目になります。ポートアイランドでは、現在、ファッション都市の核とも言えるべきファッショントウンの建設が進められています。今回はこの十年の歩みを振り返っていただき、さらにファッショントウンをも含めたこれからの展望についてお話しを願います。

ファッションは文化のバロメーター

川上 神戸のアパレルの協同組合であるKFA（コウベ・ファッション・アソシエーション）が結成されて、ちょうど十年になります。これは神戸のファッション都市づくりと同じスタートですね。

十年前にわれわれの業界で、世界に雄飛する神戸をめざそうではないか、という声が起こり、世界に誇るファッション都市神戸を旗印にして、それまでの業界の懇親会を発展的に解消したKFAが結成されたわけです。

そのときにどういうことを考えたかと言いますと、ファッション産業が成り立つのは、まず平和なときです。さらに自由がないとファッションの花は開かない。そして香り高い文化を蓄積しようとする心、経済的な豊かさ

木口

衛

△ワールド会長▽

田崎

俊作

△田崎真珠社長▽

芹澤

豊男

△セリザワ社長▽

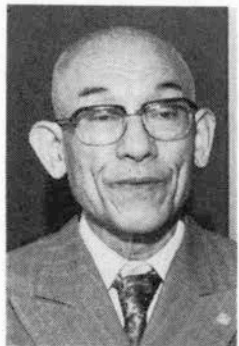
も必要なわけです。だから、われわれがめざすファッションは平和の天使であり、自由のシンボル、文化のバロメーターだという考えを基本にもって、人々により潤いがあり、よりやさしく、より豊かで、センスに富み、より美しく個性豊かな生活への欲求を提案して行こうではないかということです。香り高い生活文化をつくるために装いの分野で提案して行こうということをやろうとしたわけです。ファッションとは、女性の虚栄心を満たすだけではなく、流行ということでもとらえるのではない。香り高い文化生活をめざすのだから、地域社会の発展をファッション都市という視点からとらえようということです。

それで運動の具体的な目標を八項目かかげました。

一つは、グローバルファッションフェアの神戸開催。二つ目は、世界デザインコンテストを神戸で開催する。三つ目がファッション大学の設立。四つ目は、神戸のファッションを紹介する月刊のファッション誌の発行。五つ目として、神戸から出す商品にKFAラベルをつけてセンスとかファッション性、あるいは品質を保証する。六つ目に、ファッション都市神戸の核心として、ポート



田崎 俊作さん



河本 春男さん



芹澤 豊男さん

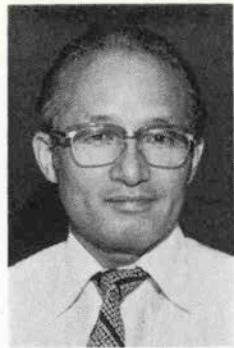
昭和四十九年にKFAが、ポートアイランドでの世界生活文化博覧会「グローバルファッショントピア」を提唱し、それに対して五十一年に、経済同友会が、国際生活文化博覧会をポートアイランドでということを提唱しました。それに先立つ四十八年には、KFAとしてポートアイランドのファッション街区づくりのプランを具体的に神戸市へ提唱しております。KFAは常にファッショ

ン都市づくりを先取りして来ています。田崎 真珠につきましては、大変恵まれていたわけですが、神戸では全国の真珠の八割が集散されています。立地条件はとても恵まれていますね。国内の業者も海外のバイヤーもみな神戸に集って来ています。ですからファッション云々ということは、あまり意識していません。しかし、気がついてみると、世の中の流れが変っていたわけです。昨年はポートピア'81もあつたりで、業界でも若い人の力の盛り上がりが顕著になって来しました。デザインコンテストをやったり、ファッションショーへ参加したり、神戸を中心とした真珠業界のイベントが、ここ二、三年急に増えて来しました。

先ほどグローバルなファッションショーということをおっしゃいましたが、ファッションの全業種が協力をして、一週間ほど国際的なファッションショーをやってみたいですね。カンヌの映画祭のように、海外からも人が来るようなイベントが出来るのじゃないですか。河本 洋菓子には、神戸市という非常に恵まれた土壌に育って来たと思います。したがって洋菓子関係では、神戸市のどの企業も東京をはじめ全国に出て行って活躍をし

アイランドのファッションタウンづくりを研究する。七つ目が、ファッション資料館・博物館の建設。そして、八つ目として国内外のファッション団体との提携・交流を深めて行く。以上のような目標を具体的にあげたわけですね。日本の各都市が、それぞれに個性の香り高い、たとえば工芸文化都市だとか、情報文化都市であるとかという形になって行くように、まず神戸がその尖兵となろう、という意気込みがあるわけです。

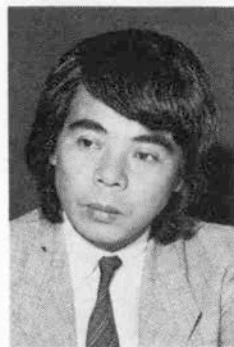
その間、われわれの年間の売り上げを見ても、当初は一十億ぐらいしかなかった。それが十年たった今、百億企業の数もだんだんと増え、一社で一十億という企業もあります。十年前とは、われわれの業界は違った位置に立っていると言えると思います。



川上 勉さん



木口 衛さん



細川 数夫さん

ています。

それは、神戸市民のセンスがいいということ、さらに外人が多いということもありますね。外人が始めたところも多く、最初から本物の菓子づくりをやって来たといふことですね。

現状は、世の中全体にファッションという感覚が強いですね。そうすると、今までは、外装というか、見てくれに力が入り過ぎて、中味がちよっとお粗末という感じがあったんですね。ところが、おとしぐらいから消費者の価値観が変わって来たと思うんです。食べものの場合、これからは、食べものそのもののセンスの良さが大事になって来ますね。ファッションという言葉を使うなら、消費者の感覚に訴えて行くというか、あるいは嗜好を先取りするというか、ニーズに即応する中味の良さをつくる時代が来ていると思います。

食べものの味では、甘いもの、あるいは塩味のものはこれは本能的なものですから、赤ん坊でも拒否をしないですね。ところが、すっぱいものとか、にがいものは勉強をしないと好きになれない。情緒的味覚と言っているけれど、これからは、こういう勉強をしてだんだんと慣れて行く味が好まれて行くと思います。そういう面でだんだんと原料へ力が注がれると思っています。

とにかく今までのところは、良い環境に支えられて育てられたのだから、これからは自分たちの力で本当に育てて行かないといけないところに来ていると思います。芦澤 この十年の間で専門店のグレードが非常に高くなったと同時に、町並みが非常に良くなったという感じがするわけです。

昭和四十五年にサンプラザがオープンしまして、引きつづきセンタ―街が高層ビル化し、他都市から有名店がどんどんと神戸へ出店された。また、地元の企業も、神戸市がファッション都市構想を打ち出す前後から、大都市に出店いたしまして、神戸の専門店の良さを全国に広めて行った。先ほど環境がよかったというお話があり

ましたが、私どもも環境に恵まれて、ある意味ではいい商売をさせていたのだと感じています。

今から七年ほど前に、専門店の組合であるKFK（神戸婦人子供服小売商組合）が結成され、最近では、東京出店の小売業の研究会と言いますか、例会をもち始めまして、神戸のイメージをよりよくして行こうという動きがあります。今後は自分たちの力で、ますますいいものづくりをし、神戸のイメージを上げて行くことが、今後の私ども専門店の責任ではないかと思っています。

神戸にはファッション都市のすべての条件が揃っている木口 神戸は非常に有難い町だと思いますね。と言うのは、ファッション都市づくりをまず提唱されたのが、亡くなられた川崎重工業の砂野 仁さんです。そういう重工業畑の人が、神戸は将来、ファッション都市に育てあげたらどうかとおっしゃった。私は、これは画期的な発言だと思う。それで、神戸は今までは重工業の町だったけれど、町のもつ雰囲気から言えば、これは誰が見てもファッション都市で行ける町並みですね。そこで、行政も商工会議所も経済界も、さらに一般市民もみんながそれに双手を挙げて賛成をした。

この十年間、行政も経済界も一緒になって、ファッション都市づくりのためのいろんな施策を具体的に実行して来ました。市民全体のコンセンサスを得てファッション都市づくりをしているのは、他には例がないと思えますね。現実には、海があり山があり坂があり、そして緑があり、町そのものがファッション性に富んで、市民もファッショナブルですね。店だけがいいのではなく、消費者の質もかなり高いですね。いろんな意味で、神戸はファッション都市づくりについては、条件が揃っている。

それにしても、この十年で町並みも変わりましたね。ポートアイランド、北野をはじめ神戸の町全体に、ずい分と緑も増えました。具体的にファッション都市らしい様相を呈して来て喜ばしいと思います。

もう一つ心強いのは、どこの都市でもファッションというとアパレル、繊維産業のことなんです。ところが神戸は最初から洋菓子、真珠、ケミカルシューズなど、いろんなものを含めてファッションと言っている。本当の意味でのトータルファッションですね。今になってみると、神戸はファッション都市づくりについては、他の都市よりも常に一歩前に進んでいて、しかも具体的に物が運んでいるということに、非常な力強さを感じます。

細川 神戸の特色はアパレルだけがファッションではないということですね。これは町の広さから言っても、神戸だから出来るという要素もあつたんですね。

この十年間をみると、経済的にも効果はあつたと思います。それと一番のポイントは、ポートピア81をやつて、これを機会に町が整備されたということですね。

田崎 ファッショントウンについては、単なる商業団地にならないように気をつけたいといけません。商売するだけの場所ではなくて、来た人がみんな楽しめる場所にしたいですね。

木口 それも今までのような町づくりではなくて、それぞれのビルが個性をもち、ファッショントウンにふさわしいものにしたいですね。

細川 ただセンター街や元町と同じようなものがポートアイランドにできて、これは経営は成り立たないと思う。センター街や元町とは味の違う一つの分野ができて、消費者は寄って来ない。

木口 町の活性化のためにも、問屋街になってしまつてはダメだということはハッキリしていますね。

細川 われわれのところは、もうビルの建設にかかつていますが、人集つてもらえる要素を自社のビルの中に盛り込んで、次に出て来る方が、これは行けるということになるように、いい波紋を与えるようにやって行かないといけないと思います。もし倉庫のようなものを建てるなら、引きつづいて出て来る方が、ここではこれしかダメだということになって、みんな倉庫になって行

くという悪い波紋が広がる可能性もあります。

木口 ただ、われわれは何も商店街をつくらうということではないです。活性化のための何かがないと、真面の団地になってしまう。せつかくつくつたものが死んでしまう。人を引きつけ、活性化のためにはどんなものが必要なのか、どういう形で伸ばして行けばいいのか、神戸の何か特色あるものをつくり上げて行かないといけない。芦澤 それと「昼の顔」も大事でしょうが、二十四時間都市という機能をもたすためにも、夜の賑わい性も必要でしょうね。

木口 聞いてみますと、各ビルにホールをつくつたり、いろんなことをみなさん考えておられるようですから、やはりセンター街とか元町とかとは違った味のあるものが出来る、私は思います。

細川 ただ問題は駐車場が絶対的に不足していることですね。これは行政の方で考えてもらわないといけない。河本 ここ二、三年を見ていますと、狭い喫茶店はダメなんです。フロアで百坪という大きな容れ物が必要です。同じコーヒー一杯を飲むのでも、ゆったりとしたところで話をしながら、ゆっくりと楽しむというように変つたということを強く感じましたね。

だから、そういうことを頭において、では、ポートアイランドのファッショントウンにどういうものを作るべきかということになりますと、十分にゆったりと楽しめる場所のあるものですね。そうすれば、あそこへ行けばこういう楽しみ方ができるということで、わざわざでも来てくれると思う。そういう町づくりをみんながしないといけない。ゆったりとエンジョイできる雰囲気づくりが大切になって来ると思います。

神戸百年の計を立て、都市づくりを進めよう

川上 これから先の話になりますと、まず、神戸百年の計を立てる必要があります。少なくともこの十年の間にファッションということにとらわれないで、次の百年へ

のスタートを切るべきだと思いますね。

近視眼的にみますと、神戸の今の歩みは継続され、だんだんと仕上げられて行くわけですが、その中で一つは神戸そのものが活力にあふれて、新しいものに取り組み、人間環境都市として革新して行く実験をつづけて行く。

さらに都市間競争、地域間競争、さらに国際間競争のなかに放り出されるという形になって行くでしょうからそうなる神戸は、今ある特色の上に、さらに特色を出して行く必要がありますね。国内はもちろん、世界的に神戸の良さを知ってもらうために何かをやる必要、があります。

ポートアイランドを見た場合、これは神戸百年の傑作だということを感じざるべきだし、その中のファッショントウンということでは、三十年後、五十年後にもなお活力にあふれ魅力に富んだ町でないといけない。だから町づくりをして行く上で、三十年後、五十年後にも活力あふれる町のために対応して行くフレキシブルなスペースとか、そういうものをもっておく必要がありますね。

たとえば、建物の壁のつけ方にしても、あとあとちょっと手を加えると大きなスペースとして使えるというように、建築の上でも三十年後、五十年後を配慮したものが必要だと思う。町の活力を常により新鮮に、より発展させて行くために、フレキシブルなスペースの活用ができる配慮が必要だろうと思いますね。

それと、どこから来てもここから神戸だ、また、神戸から出るときにも、ここまでが神戸だったという何らかの標識、それが花であってもいいし、モニュメントであってもいいし、森であってもいいし、あるいは凱旋門のようなものであってもいいですが、ここから神戸、ここまで神戸というものがあっていいですね。

さらに、それぞれの地域、たとえば北野なら北野、三宮なら三宮という地域がそれぞれの特色をもつ。個性あふれる町の集った巨大な花園が神戸であるという形になって行けばいいと思いますね。

芹澤 ファッションは生活文化ですから、文化の向上という意味から、町の中にもっと芸術が入って来てもいいのじゃないかと思えますね。たとえば、フラワーロードには彫刻の道がありますし、文化ホールの付近にも彫刻の道がありますね。ああいうものが、もっともっと町の中にあってもいいと思いますね。

一方、話は変わりますが、中小企業大学が福崎にありますね。せっかく行政と民間との力でファッショントウンづくりが盛り上って来ているので、神戸にファッショントウン大学があってもいいと思いますね。たとえばデイスプレイススクールというものがあって、ウインドウがもつと市民の目を楽しませるものになって欲しいし、あるいは、マーチヤングダイジニングとかバイヤー論などは学問としてもとりあげていいジャンルだと思いますね。ファッショントウン博士というのが生まれてもいいのじゃないかと思えます田崎 私は、これは大学というような大きなものではないのですが、自分でデザインをして、自分で指輪をつくって、自分の指にはめるといふ教室といいますか、学校のようなものをつくりたいと考えています。受講者は多いんじゃないかと思えますね。

木口 確かにセンスのある人が集って来ると思えますね。今おっしゃったようなものが下地となって、ファッショントウンへと発展して行くと思えますね。最初から大きなものではなくても、核が出来ればだんだんと大きくなって行くのが自然ですね。

田崎 ポートアイランドのファッショントウンから新しい波を起こしたいですね。

川上 神戸のファッションは、アパレルだけではなく、町そのものであり、地域社会の生活文化を向上させて行くことが、神戸のめざすファッショントウン都市づくりであるということですね。

細川 ファッショントウンの建設を機に、行政プラスわれわれ民間が頑張つて、ファッショントウン都市づくりを進めて行かないといけないと考えています。

田崎真珠株式会社

取締役社長 田崎 俊作
神戸市中央区旗塚通 6-3-10
TEL (078) 231-3321

オールスタイル株式会社

取締役社長 川上 勉
神戸市中央区伊藤町121
TEL (078) 321-2111

カネボウベルエイシー株式会社

取締役社長 福岡 必三
神戸市中央区三宮町1丁目9-1-807
センタープラザ東館 8F
TEL (078) 392-2101

株式会社ベニヤ

取締役社長 松谷 富士男
神戸市中央区三宮町1丁目10-1
TEL (078) 332-3155

モロゾフ株式会社

取締役社長 葛野 友太郎
神戸市東灘区御影本町6丁目11番19号
TEL (078) 851-1594



いま神戸の歴史が動く

□神戸港沖三キロ。そこに世界初の海上文化都市ポートアイランドがある。その中核グインターナショナルスクエアの一面に、今、ファッショントアウンの建設が進められている。ファッション都市神戸が二十一世紀へと翔ぶための大いなる構想が着々と進んでいる。



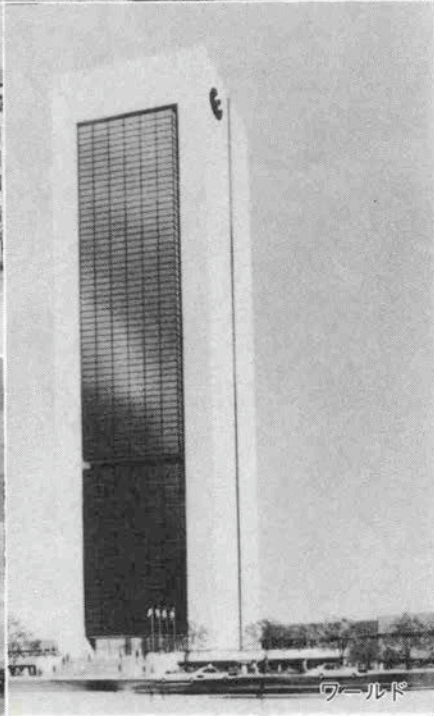
田崎真珠



キムラタン



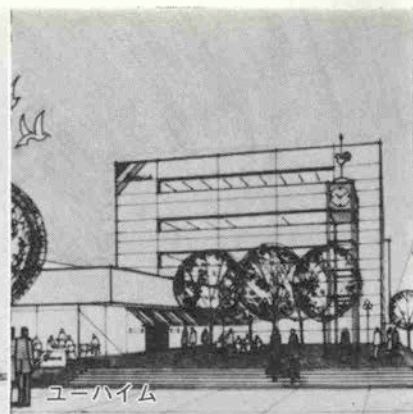
ジャワ



ワールド



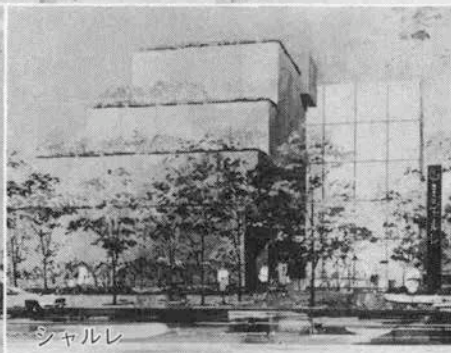
上島珈琲



ユーハイム



カワノ



ジャルレ



ジュン



コスモポリタン製菓



レモン・リッチガール



オカセン

(完成予想図。変更もあります)